

研究実施のお知らせ

2022年2月10日 ver.3.0

研究課題名

骨盤臓器脱手術の有用性に関する後方視的検討

研究の対象となる方

2009年1月から2032年12月の間に島根大学医学部附属病院で骨盤臓器脱と診断され、手術を受けられた方

研究の目的・意義

高齢化社会の到来に伴い、子宮や膀胱、直腸が下がってくる骨盤臓器脱の患者さんが増加しています。骨盤臓器脱を根本的に治療するには外科的手術が必要ですが、現在行われている骨盤臓器脱手術にはいくつかの種類があります。島根大学医学部附属病院産科婦人科では骨盤臓器脱の患者さんに対し、前後腔壁形成術(腔式子宮全摘術を含む)、腔壁メッシュ挿入術(TVM手術)、腹腔鏡下仙骨腔固定術の3つの術式を患者さんの状態に応じて選択しています。それぞれの手術にはメリット及び特有のデメリットが存在します。本研究はどのような患者さんにどの手術を選択すればより手術のデメリットが少なくなるのかを検討する目的で行います。

研究の方法

骨盤臓器脱に対し当院で手術を受けられた患者さんの診療録より以下の情報を収集させていただきます

- 1) 年齢、骨盤臓器脱 POP-Q 分類、実施術式
- 2) 手術時間、術中出血量、術中合併症の有無、術後疼痛の有無
- 3) 術前尿失禁の有無、術前残尿量、術後尿意の有無、自尿量、残尿量、術後尿失禁の有無
- 4) 術後合併症の有無

収集したデータをもとに、手術方法と術中・術後合併症、排尿機能との関係、あるいは年齢と術後合併症、排尿機能との関係を解析する予定です。なお、この研究で収集したデータは島根大学医学部産科婦人科学講座で厳重に取り扱います。パスワード等で制御したパソコンに保存し、施錠可能な場所で保管します。データにはお名前、住所、カルテ番号など、個人を特定できる情報は含まず、それとは別の識別番号をつけて患者さんを区別するようにします。研究結果公表の際にも、個人を特定できない形で関連学会及び論文にて発表する予定です。

研究の期間

2017年3月～2032年12月

研究組織

この研究は島根大学医学部産科婦人科学講座が行います。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身又はご家族のデータを研究に利用してほしい方、その他ご質問のある方は次の担当者(研究責任者)にご連絡ください。

島根大学医学部産科婦人科学講座／附属病院産科婦人科 金崎春彦
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1
電話 0853-20-2268 FAX 0853-20-2264